

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
学習・クラブ・生徒会活動等を通して、集団(社会)の中で自主的にかつ主体的に取り組める集団を作る。 ① 授業における学習姿勢の確立と家庭における学習習慣の定着をはかり、合わせて基礎学力の定着・向上をめざす。 ② 集団生活を通して、挨拶や礼儀、マナーやモラル等、社会性を育てる。 ③ 学校生活を充実させるべくクラブ・生徒会活動に関心を高めさせ、積極的に取り組ませる。 ④ 保護者と連絡を密に取りながら、学校(学年)との信頼ある連携をはかる。		それぞれの取り組みに関しては、目的意識を持って意識的に配置・対応してきたと考えている。そういう意味では、取り組み(投げかけ)のボリュームを作ってきた1年間であったと感じる。残念ながら、それぞれの取り組みが想定通りの効果を生んできたとは言いがたい面もあるが、それらの取り組み群の成果として、学年全体を一定の範囲内(水準)で活動させることが出来たと考えている。			B	
目標	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C	
1	家庭学習の習慣を身につけさせることで、学習習慣の確立と基礎学力の定着をはかる。	生徒が学ぶことの意味や根気強く取り組むことの重要性を認識させ、家庭学習の習慣を確立できたか。	毎日ドリルの取り組み・各教科の宿題・提出物をきちんと提出させる取り組み等粘り強く取り組んできた。		○	
2	ベル着の徹底など時間厳守を意識させることで、授業への集中力を高めさせ、また提出物の期限厳守などの恒常化をはかる。	生徒自らが、先を見越した行動をすることができたか。	提出物を期限内にきちんと出すということが身に付いていない学年集団に対して、各教科・HRで期限を守ることが社会では最低限の条件だということを繰り返し説き続けた。		○	
3	コミュニケーションをはかるための第一歩である挨拶の励行を心がける。また、SSTを計画的に配置する。	自分から積極的に挨拶ができたか。 生徒のコミュニケーション能力をたかめることができたか。	SSTの必要性に関する認識は十分に持っており、年度当初のオリエンテーション宿舎にも盛り込んだが、過密な日程の中で2回目を設定できなかった。次年度の課題の一つと位置づける。		○	
4	携帯電話やスマートフォンの自己管理などについて注意喚起し、学校のルールを守らせる。	生徒自らが、時間にけじめをつけることができたか。	スマホ絡みの問題行動を起こる中で、縷々指導してきたが、個が弱い生徒を中心に流されている現状は残っている。		○	
5	進路指導の中で、課題を設定し、自ら調べ、それをまとめて、自分の意見として発表し、協議するという要素を意識的に導入する。	生徒達が意欲的に取り組み、その中で発見し、自らの考えをまとめることができたか。	かなり意識的にキャリア教育を設定してきた。その結果、不十分ながらも、自分たちの取り組みをまとめ、発表する段階まで踏むことが出来た。	○		
6	クラブ活動や生徒会活動等自主活動を奨励し、充実した生活を送るようにさせる。	自主的かつ意欲的な活動を通して、生徒が様々な経験ができるように支援できたか。	勿論個人差はあるが、それぞれにクラブに所属し、自分の居場所を確保出来ている。	○		
7	ルーム長会を機能させ、行事等の充実をはかり、いじめのない学年をめざす。	自治的に集団を運営することで、生徒への認知度を高め、指導力を発揮した集団作りができたか。	学年行事の進行だけでなく、学年の状況を分析し学年目標を設定して呼びかける等、自治的な取り組みを展開できた。	○		
8	学年通信等を通して、生徒・保護者に学校の現状を説明するとともに、指導の意図について丁寧に説明し、指導効果を高める。	生徒及び保護者に指導意図が理解されていたか。	個々に対する働きかけは不足無く行ってきたと考えているが、集団に対する情報の流し方は十分ではなかったと思われる。来年度以降、学年通信等のあり方を再検討したい。		○	
9	生徒の問題を学年全体の問題として捉え、協力して対応する。	学年団の連携が緊密にとれ、迅速かつ的確な対処ができたか。	学年団として、情報を交換しつつ個々に対する対応も連携して行ってきた。	○		

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
<p>学校生活全体を通し、主体的かつ自律した人間形成をめざすとともに、仲間を思いやる豊かな人間性を育む。</p> <p>① 目的意識を持って自分自身の生活を企画、実践していく能力を高める。</p> <p>② 主体的にコミュニケーションをとり、人とつながる能力を高める。</p> <p>③ 集団を自治的に運営する経験を通じて社会的な意欲と社会性を高める。</p>		<p>学校生活全体を通して、時間通り集合し、与えられた課題をやり遂げることは比較的できている。一方で目的意識を持ち、課題点を見つけ克服に向けて主体的に努力する点がやや欠けている。コミュニケーションの点も、生徒間ではラインで済ませることが多いように感じるので、人とのつながりをどのように高めていくかを今後の課題としたい。</p>			B	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	家庭学習の習慣化を図るべく、提出課題も含めた学習を中心とした生活を確立し、進路の意識を高める。	日々の学習に意義を見出し、各自の進路に向けて目的意識を持って、学習活動に取り組んでいるか。	与えられた課題に対する取り組みはおおむね良好である。各自が主体的に目的意識を持ち学習に取り組んでいる点が課題である。		○	
2	毎日の挨拶を大事にして、人とのつながりの大切さを認識する。次の行動を意識した生活を促す。	気持ちの良い挨拶ができたか。集団生活を意識する中で、時間を守り、今何をすべきか、次何をすべきかを考え、行動できたか	学校内でのあいさつは良好である。授業も始業時の「ベル着」は概ねできている。修学旅行においても5分前行動がほぼ実行できた。	○		
3	スマートフォンや携帯電話の使用のあり方を見つめ、時間にけじめをつけさせ、自己管理を促す。	トラブルに巻き込まれたり、依存しないようにし、必要性を再確認して有用な活用となっているか。	授業中の使用はほとんどなくけじめを持って使用している。また、スマホを利用した進路先検索など有用な利用法も実施した。ごく一部依存的な使用をする者、休み時間中のゲームが問題である。		○	
4	クラブや生徒会活動における全校の担い手としての意識を高める。	伝統を引き継ぐと同時に自分たちの代で何ができるか、意欲を持って活動できたか。	代替わりの後、クラブ、生徒会活動ともに概ね自覚と意欲を持って行動できている。	○		
5	R長会が学年全体を動かす中心的存在として、意識を高め行動する。	各行事を通して、学年全体の手本となるように、主体的に行動することができたか。	時間通り集合して活動することはできている。自ら課題を見つけて取り組む点がやや不足している。		○	
6	生徒の問題を学年全体の問題として捉え、共有し、協力して対応する	学年団の連携が緊密にとれ、迅速かつ的確な対処ができたか。	正担任の間では、個々の生徒の状況などを緊密に連絡し合い、共有化し対応することができた。	○		
7	保護者への情報提供を迅速かつ細やかに行う。	学年通信やオクレンジャーを利用して、家庭が学校の様子を充分把握できたか。	学年通信やオクレンジャーを通して、様々な連絡の徹底を概ね図ることはできたが、更に工夫していきたい。		○	

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
④ 卒業後の自律と自立に向けて、目的意識を持った生活を考えさせ、実践することができる能力を高めていく(希望する進路の実現をはかる)。 ⑤ 危機管理、自分の安全を自分で確保するという意識を高める。 ⑥ 主体的にコミュニケーションをとり、人や社会とつながる能力を高める。 ⑦ 集団を自治的に運営する経験を通じて社会的な意欲と社会性を高める。		クラブや生徒会では、活動を通じて精神的にも成長することができた。合唱コンクールやクラスマッチでは、各クラスともまとまりを見せ上位を独占した。希望する進路実現のため努力する姿が見られた。センター試験受験者が約 75%で、高得点をあげた生徒も存在した。その一方で、学習やクラブでは「あと一步」の殻を破れないケースも見られた。			B	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	進路に対する意識をより高めつつ、進路目標を実現させるための具体的な取り組みが、一人一人主体的に展開できるように支援する。	生徒が自分の進路に真剣に向き合う中で、必要な情報の収集や研究、更には各自の進路実現のための必要な取り組みを実践できたか。	鈴蘭祭終了後から主体的にオープンキャンパスに参加する生徒が多数存在した点は評価できる。ただ、学力面では、進路実現に向けて取り組んではいるものの、取り組みにやや甘さが見られた。		○	
2	進路目標に対応できるだけの学習時間の量的な拡大と質的な向上をはかるよう促していく。	一人一人が自分の目標や志望を明確化することで、実現に必要な学習時間を確保し、より効率良い学習を進めることができたか。	比較的家庭学習時間が確保でき、定期考査では成果が見られた。ただ模擬試験やセンター試験の結果では、例年と比べ僅かな向上にとどまった。		○	
3	危機管理、自己管理を更に促すとともに、卒業後を意識した社会性の育成やコミュニケーション能力の向上を目指す。	卒業後の自律と自立、周囲との協調を目指して、自分を適切にコントロールし、回りを意識した立ち居振る舞いができたかどうか。	大半の生徒は、協調性が高く感情のコントロールはできている。コミュニケーションの必要性を理解し、責任感が出てきた生徒も増えてきた。一方で、貴重品の管理など危機管理の面では甘さも見られた。		○	
4	クラブや生徒会など生徒の自主活動を支援し、最高学年としての自覚を持った活動を促していく。	最高学年として全校をリードする中で、より意欲的に活動に参加し、意義を見出すことができたか。	クラブ活動と生徒会活動では共に、3年生としての意識と自覚を持ち責任を果たした。行事などでも全校を牽引でき中心的存在であった。	○		
5	R長会を自治的に運営し、学年全体を動かす存在としての自覚を促す。	自治的に集団を運営する意味を認識する中で、積極的な活動が展開できたか。	1、2年次に比べ、活動機会は少なかったが、リーダーの自覚を持ち、中心としての行動が取れた。	○		
6	職員の情報交換や連携を重視し、学年全体で支援体制を構築する。	学年団の連携が緊密に取れ、迅速かつ的確な対応ができたか。	情報交換だけではなく、各係(生指・進路・支援等)と連携を取り、適宜、対応することができた。	○		
7	保護者への情報提供を迅速かつ細やかに行う。	学年通信やオクレンジャーを利用して、家庭が学校の様子を充分把握できたか。	適宜、通信やオクレンジャーを通して、情報を提供しつつ、連携を取るよう心がけるよう努力した。	○		

今年度の重点目標			領域の評価(成果と課題)	総合評価		
① 諸行事・諸会議の企画・運営を積極的に見直すとともに校内の各部署と綿密な連携をとり、効率的で円滑な学校運営をはかる。 ② 想定される様々な災害・事故・事件に対応する危機管理マニュアルを作成し、その現実的な運用をはかる。 ③ 学校・生徒の活動を積極的に地域に発信し、地域に開かれた学校づくりをはかる。			年度途中における職員の異動により役割分担の変更やそれともなう負担贈があったが、協力しあって困難な状況を乗り越えることができた。 サーバー内のデータ整理やさらなる地域との連携など、残された課題もあるが、職員会資料の事前綴じ込みや芸術鑑賞の他校との共同開催、「危機管理マニュアル」の作成など、新規の事業や懸案の課題にも取り組むことができた点は評価できると考える。	A		
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	職員会議・成績会議・朝会の企画・運営	効率的で円滑な民主的運営ができるよう工夫されたか。	今年度より事前に資料の綴じ込みをするようになったため、スムーズに職員会を開始できるようになった。早めの議題提出も定着するようになった。	○		
2	入学式・卒業式・始業式・終業式の運営	関係部署と協力し、効率的で円滑な運営ができたか。	早めに集合・整列する習慣が定着しており、定刻通り開始することができるようになった。3学期始業式はインフルエンザの感染等を考慮して放送での実施とした。	○		
3	体験入学・公開授業の企画・運営	PR活動・渉外活動を含め、適切な企画・運営を行うことができたか。	台風の影響により開催が危ぶまれたが、予定どおり開催できた。例年同様に生徒会執行部生徒に協力してもらい、そのことが来校者にも好印象を与えたと思われる。	○		
4	入学者選抜業務の企画・運営	綿密な計画を立て、確実に円滑な運営ができたか。	現在、計画書を作成中である。検査室の数を減らし、特別検査室の検査係員数を増やすなどの改善を図っている。	/		
5	時間割・行事計画・日課等の検討・運用	適切で合理的な立案・運用ができたか。職員・生徒への周知ができたか。	今年度より土曜日授業をなくして火曜日・木曜日の7時間授業を取り入れた。ようやくそれになじんで学校生活のリズムが定着してきた感がある。	○		
6	危機管理 防災訓練の運営	危機管理マニュアルを作成し、その運用のための工夫ができたか。	他校の例を参考に、数年来の課題である地震・火災だけでなく様々な事態に対応する「危機管理マニュアル」を作成することができた。防災訓練も昨年度の反省をいかして円滑に避難人員の確認ができるように工夫を加えた。	○		
7	ホームページの運用	定期的な更新ができたか。閲覧しやすい工夫がなされたか。	定期的な更新はある程度実施できたが、今後は生徒会・同窓会等のHPを作成してリンクできるように検討したい。	○		
8	「野沢南だより」の発行	年に4回の定期的発行ができたか。配布の際の工夫ができたか。	年間4回の発行計画に基づいて計画的に発行しつつある。台湾の高校生との交流会については号外を発行した。各中学校へ配布しているが、今後は回覧板による地域への情報提供も検討したい。	○		
9	視聴覚・情報機器・校内LANの維持管理	機器の管理・保全ができていたか。サーバー内の整理が進んだか。	来年度は系の再構成を契機に視聴覚・情報機器の整備と管理についても改善を図りたい。また、サーバー内のデータについて古いデータは整理するとともにある程度の様式を設定して統一を図りたい。		○	
10	芸術鑑賞の運営	生徒の関心と芸術的感性を高める企画であったか。	昨年度に続いて生徒からは好評であった。来年度からの小海高校との共同開催についても相手校と十分な協議の上で職員会にて決定済みである。今後、相手校との連携を深め、生徒にとって有意義な演目を選定することが課題である。	○		

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
① 朝読書の充実 ② 図書委員会活動の活性化 ③ 明るい図書館		・図書委員は月1回の学級文庫の入れ替え作業で、クラスメートに多くの本の提供に努め、今年度も朝読書を実施することが出来た。 ・日常の図書当番はきちんと行えた。また、本や作者の紹介等による壁面装飾、「図書館だより」も広報活動として定着しつつあると思う。 ・蔵書の展示の仕方や本の紹介の工夫等もあり、館内が明るくなった。それに伴い図書館利用者が増えた。			A	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	朝読書及び読書指導	生徒が朝読書を通じ、自分の選んだ図書に興味を持ち楽しく読む姿勢をつくり得たか	朝読書の日程も月・水・金と週3回となったが、落ちついた朝読書が出来ている。朝読書の時間にはオルゴールを流して雰囲気作りをした。	○		
2	委員会活動	当番活動を始めとして、広報活動・選書活動・調査活動等に積極的に取り組めたか。	当番活動・月1回の学級文庫の入れ替え・壁面や図書館入り口を利用して推薦本の紹介等を行った。又読書旬間中に先生と生徒の推薦図書を紹介したり、「ハロウィン企画」や「クリスマスXの企画」や通年の「図書館便り」を通し、貸し出し冊数を増加させた。	○		
3	教科との連携	各教科との連携をスムーズに行い、資料等の情報を提供することができたか。	要望に応じて、資料の検索・相談・提供などスムーズに行えた。図書館の蔵書を利用した授業が増えた。		○	
4	蔵書管理システムの活用	図書館活動に十分に活用できたか。	日常の貸出や返却、資料検索などの図書活動に十分活用することが出来た。	○		
5	レファレンス・サービス	利用者からのレファレンスに対し、他館との連携などにより、資料の提供ができたか。 定時制用の書架設置	公共図書館や他校との相互貸借を行うなどして、資料の提供が出来た。  定時制の要望を受け、考えたい。	○		

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
① 自立した学習者の育成の研究と実践 ② 大学等の推薦入試(小論・面接等)への組織的指導 ③ 保護者への進学状況の提供。(PTA各学年委員会との協力) ④ 職員全員による入試研究、広報活動・進学情報等の共有 ⑤ 校外模試の活用、データの共有、有効活用 ⑥ キャリア教育の推進と鈴蘭アカデミーとの連携・協力		例年実施している活動を基本的に行うとともに、長野大学・県立大学・諏訪理科大学の研究や新入試に向けた入試の変化に対応するよう努めた。 キャリア教育・総合学習と連携し、地元企業訪問を実施し、1年生では地域に目を向けるとともに進路について考える機会をつくることができた。 新大学入試に対応するように新年度入学生だけでなく、在校生について全職員であたっていかなければならない。			B	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	適切な進路指導の実践	進路指導が計画どおり、バランスよく総括的に行われたか。	計画通りに実施できている。新テストに向けて対策を来年は計画していきたい。		○	
2	学力の向上(自立学習支援)	学力向上に向けて自立学習支援の研究と実践ができたか。	家庭学習強化週間の呼びかけなどを通して自立的に学習する大切さを伝えることができた。		○	
3	推薦入試等の組織的指導	職員の共通理解のもと、生徒一人一人に担当を決めて進路指導ができたか。	共通理解が難しく、生徒に担当を1人1人決めることができなかった。指導方法を再検討したい。		○	
4	保護者との連携	進路説明会・HP・新聞・通知等で進路実践の説明・報告ができたか。	PTA総会や懇談などで保護者向けに資料を提供することができた。	○		
5	情報収集・研究と進路情報の共有	学校訪問を計画的に行い、入試情報を得て職員と共有することができたか。	三年生の希望を中心に、公立化(長野・諏訪理科)学校などの情報集めも行うことができた。		○	
6	進路情報・資料の活用	適切なデータ収集と提供ができたか。データの共有と有効利用ができたか。	各種説明会に参加し収集した情報や面談で得られた情報を共有することができた。		○	
7	勤労観・職業観の育成	キャリアガイダンス・講演会・インターンシップ・「ようこそ先輩」など効果的に取り組めたか。特に、就業体験的活動は充実した実践になったか。	1年大学インターンシップ、2・3年分野別進路ガイダンスなど実施。1年生は夏期休業中に企業訪問を行い、職業理解を深めた。	○		

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
① 生徒の、将来の職業選択や自己実現のために必要な職業観を育む探究的な学びの援助をおこなう。 ② 生徒自身の自己理解を深める援助をおこなう。 ③ コミュニケーション能力を育むための条件を整える。		1, 2年生が将来の講座・進学・職業選択の参考になるべく必要な情報を与えるために就業体験、大学出前授業、大学インターンシップ、ようこそ先輩の4行事を実施した。大学関連の行事については理解が深まり例年通りの成果を上げたが、1年生のキャリア教育では企業訪問など新たな取り組みを行った			A	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	自己理解の深化・職業理解の拡大	各種行事への参加や各種調査(進路希望・スタディーサポートなど)を通じて、生徒の自己理解の深化を援助できたか。	各行事を滞りなく行い一定の成果を上げることができた。1学年においては、企業訪問を行い地域の企業について理解を深めた。	○		
2	コミュニケーション能力の伸張	教育活動のあらゆる場面でコミュニケーション能力の伸張が図れるよう、カリキュラムや行事計画について必要な手だてを講じることができたか。	事前・事後のアンケートやレポート等で講師の方へフィードバックを行い、意見の交流を行った。1学年においては、ソーシャルスキルトレーニングを導入した。生徒間の情報交換をはかり、自己理解や職業理解を進めることができた	○		
3	情報伝達	重点目標実現のために有益な情報(ボランティア・各種体験などの募集)の伝達について工夫をし、伝達の徹底ができたかどうか。	ボランティアの情報についてはふれあい同好会を通じての情報提供になっている。職業体験学習については、適切に情報伝達できた。		○	
4	他の機関等との連携強化	児童館・病院・上級学校・保護者や地域の人々などとの連携を深め、生徒の自己理解や職業理解の援助ができたか。	就業体験、企業訪問、ようこそ先輩などを通じて地域との連携を増やすことができた。継続的な体験学習などの可能性を模索したい。	○		

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
正しい認識の基盤となる科学的な学習と想像力が、「平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去」することに繋がることを学ぶ。		科学的な認識と思考が互いの基本的人権を守り、民主的な社会を維持発展させることにつながるということを、象徴的なケースを通して学ぶことが出来た。			A	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	全校人権HRの実施	人権問題についての正しい理解と認識が深まったか。全校人権HRの前後で、必要な段階を踏むことが出来たか。	特設人権教育HRを年暦の中に位置づけ、実施することが出来た。教材を全学年共通として、教案も用意し、事前に職員の周知を図ったので、授業の水準も確保出来たと考えている。教材の質が高かったこともあって、生徒が自分の課題として捉えることが出来たと考えている。	○		
2	職員研修の実施	人権教育に携わる指導者として、教材と教案に関する理解を深めることが出来たか。	特設人権教育HRの実施前に、教材と教案に対する理解を深めるために、職員会で一定の時間を取って説明確認した。特に、特設LHRの狙いをしっかりと共有出来た点は大きかったと考えられる。	○		



今年度の重点目標			領域の評価(成果と課題)	総合評価		
① 計画力・企画力・指導力・調整力を持つ執行部を育成する。 ② 各委員会の更なる活性化をはかり、委員として自主的に行動できるようにする。 ③ 活動を学校内外に発信する。 ④ 今後の自主活動のあり方について探求する。			○各行事や委員会活動等において、役員・執行部を中心に新しい企画等にチャレンジしようとする積極的な姿勢もみられたが、実施に際し、事前の計画・準備の遅れや不足、また指導力・調整力の不足等感じる場面も多くあり、課題が残った。 ○後期の役員会・執行部会では、積極的に意見を出し、話し合い、問題を解決していく雰囲気や姿勢がみられた。今後こうした雰囲気や姿勢をさらに育て、活動を充実させていく方法を考えたい。	B		
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	各行事の企画・運営	設定時期・内容・運営が適切であったか。	○前期・後期 役員・執行部ともに、新たな行事等を企画・運営しようとするなど意欲的に活動することができたが、事前の計画や準備等の不足により、行事等の実施に際し、多くの課題を残した。 ○秋季クラスマッチの時期については新旧 役員・執行部の円滑な引継ぎという点等から 9 月の実施が望ましいと感じた（秋季クラスマッチまで 3 年生が企画・運営するため）。		○	
2	執行部指導	役員会・執行部会の機能の充実、自主性・創造性の醸成がはかられたか。	○毎週定例の役員会・執行部会を開くことができた。○生徒が「役員会」「執行部会」の役割を理解し、議題や資料等事前の準備を行ない、限られた時間の中で有意義な議論ができるよう指導する必要性を感じた。○後期は、定例の執行部会を 朝から放課後 にすることで、ひとつの議題に対し時間をかけて話し合うことができるようになった。また話し合いの方法を工夫することで意見を出しやすい環境になりつつある。それらの点は今後も継続、発展させていきたい。		○	
3	委員会活動の活性化	委員長を中心に、多くの委員が活動したか。	○新たな活動を企画、実施するなど積極的に活動を行うことができた委員会もあった。○各委員会で活動内容を再度確認し、委員長を中心に多くの委員が積極的に活動に参加できるよう考えていきたい。		○	
4	委員会活動の連携	委員会間、生徒間、顧問間の連携がはかられたか。	毎週定例の 役員会・執行部会 を行うことで、それぞれの連携をはかることができたが、さらに連携が密になるよう考えていきたい。	○		
5	クラブ活動の活性化	加入・活動人数の増加が図られたか。充実した活動ができたか。	○各クラブ顧問の先生方のご指導のもと、概ね例年通り活動できた。		○	
6	文化祭の質的向上	より高いテーマや目標を掲げて準備できたか。学校内外から評価が得られたか。	○1年生のクラス展では総合学習の発表を取り入れた企画にするなど新たな試みもあった。○各係や企画で計画や準備を早め、内容面についても再度確認・検討してきたい。		○	
7	地域への貢献	ボランティア活動や地域清掃等を通じて地域への貢献をはかられたか。	○今年度新たな試みとして年2回（春・秋）地域清掃を行った。今後も継続してきたい。また、回数増や参加者についても検討してきたい。			○

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)				総合評価
① 生徒の生活習慣確立(自主自律)をサポートする。 ② 学校内及び登下校時における安全管理の大切さを生徒に徹底し、事故等を未然に防げるように促す。 ③ 地域との連携をはかり、学校内のみならず、学校外での事例に対し速やかに対応できる体制を整える。 ④ 頭髪等風紀指導及び盗難防止に努め、生徒が安心して勉学に集中できる環境を作る。		① 各生徒たちの生活習慣に対し細かな指導ができた。 ② 交通事故が多く発生しており来年度に向け交通安全の意識を高めるための指導が必要である。 ③ 地域からの声に対し素早く対応することができた。 ④ 盗難が多発してしまい、安全管理の徹底を図ることができなかった。来年度に向け安全管理に対する啓発を促す必要がある。				A
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	風紀指導	各学期の始めに全校一斉風紀指導を実施したか。	各学期の初めに初めに風紀指導を実施した。	○		
2	交通安全指導	春・秋計2回の交通安全指導、原付安全講習会を実施し、交通安全に対する意識を高めることができたか。	原付安全講習会を実施して通学及び下校時の安全運転指導を実施した。	○		
3	生徒への投げかけかた	生徒指導通信等を活用し、様々な問題を生徒に発信をし、各自の問題として考え、解決できるように努めたか。	生徒たちの様子を観察し、必要に応じて通信を通し指導の手を入れることができた。	○		
4	校内研修体制の充実	人権教育係等と連携し、今日的な様々な問題に対して、専門家などから話を聞く等の教職員全体の研修会をもつことができたか。	スクールカウンセラーを講師に迎え、生徒支援の研修会を実施した。	○		
5	指導の公明性	問題行動等、生徒への指導において、その根拠・手続きなどが十分に生徒・保護者に説明されているか。	問題行動発生時においては慎重に対処し、初動時における保護者への説明を行うことができた。	○		
6	職員体制の確立	有機的な連携がとれる全職員の協力体制ができているか。	生徒指導の進め方において職員間の共通理解が必要と感じた。(マニュアルを作成)		○	
7	保健係、生徒支援委員会等の連携	生徒の心の問題やいじめの根絶等について、保健係や生徒支援委員会等と十分に連携がはかれたか。	各事例に対し、素早く対応ができた。	○		

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
① 特別な支援を必要とする生徒の支援計画、支援体制の充実を図る。 ② 職員向けに発達障がい等の研修会を企画し、発達障がいについての知識と理解を深める。		1/3適用が必要な生徒について、『学年会→支援委員会→職員会へ』という一定の流れで取り組むことができた。また、学年会と生指との合同会議や個別の支援会議に、必要に応じてカウンセラーに参加いただき助言をいただくことができた。 職員向け研修会の内容は、生徒の状況に合わせ検討し、変えていくのがよいと思われる。本年度も忙しい中、多くの先生方に参加いただき、必要性を感じた。また、知識・理解を深めることができたと思われる。			A	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	校内の特別支援体制の充実	定期的に生徒支援委員会を開き、生徒の情報を共有し、生徒支援(相談)について積極的に対策を講じ、解決に向けた取り組みができたか。	保健係を兼ねている支援委員4名で、定期的な(週1回)会を開いてきた。学年ごとの生徒状況の情報交換を行い、情報の共有ができた。ある程度の状況把握ができていたため、1/3適用等の拡大委員会の運営がスムーズにでき、職員会への提案につなげることができた。 例年同様ハートフル旬間を2回実施したが、生徒の利用はなかった。また、いじめ悩みアンケートを全校対象に実施した。大きな事案はなかったが、個人が特定できる件については、担任に早期に対応してもらい、事なきを得た。	○		
2	個別の支援計画、支援体制についての研究及び情報収集	高等学校特別支援教育研究会で学んだ内容を基に、支援計画、支援体制について具現化することができたか。	養護教諭からの要請により、SCによるカウンセリングに的確につなげることができた。 また、個別の支援会にもカウンセラーに参加していただき、保護者への助言もできた。	○		
3	発達障がいの研修会の計画	職員が参加しやすい研修会が計画できたか。また、研修会を行うことによって職員の知識、理解を深めることができたか。	今年度の生徒の状況は、発達障がいよりも、不登校(1/3適用)傾向の生徒が増加していたため、『不登校の理解と援助』の講演会をSC伊藤先生にお願いした。多くの先生方に参加していただき、知識・理解を深めることができた。	○		

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)				総合評価
① 校舎内外の清掃・美化 ② 委員会活動の活性化						A
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	校舎内外の清掃・美化 ・清掃分担は、清掃しやすい場所、監督しやすい場所にするよう配慮し、通年、清掃が日常活動として定着できるようにする。 ・用具庫が機能的に使用できる状態を維持し、必要なものは購入する。	清掃は日常活動として定着しているか。  用具庫を機能的に使用できるように維持しているか。	通常の清掃をしっかりと行うことができた。たりない用具などもあったが予算の関係で購入できないものもあった。	○		
2	委員会活動の活性化 ・日常清掃を最も重視し、自分たちのクラスの分担の用具、清掃状況を点検する。また、ゴミの分別を徹底させ、箒の柄にヒモをつけるなど、細かいことに気を配る。 ・生徒会執行部とともに、校外清掃を実施する。	用具の点検整備、モップ洗い、ゴミステーション当番などしっかりと活動しているか。  計画に従って校外清掃が実施できたか。	例年行われている活動については、今年度もよくできた。それに加えて、生徒が自主的に行う活動の一環として、第二体育館横の駐車場の舗装を行った。	○		

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
① 生徒が心身とも健康な体で、安心して、安全に学校生活を送ることができるよう支援する。 ② 生徒支援委員会並びに特別支援教育コーディネーターと連携をはかり、支援体制や健康相談の充実を図る。		①生徒の健康管理については心身ともに健康な学校生活が送れるように、情報提供や注意喚起を行いながら支援することができた。 ②定期的に係会を開き情報の共有を図り、生徒支援委員会や特別支援コーディネーターと連携しながら取り組むことができた。今後も継続して取り組んでいきたい。			A	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	基本的な生活習慣の指導	睡眠・食事・服装や薬に頼らないなど、生活習慣の改善がみられたか。	・来室カードを記入することで、自分の生活を振り返る機会を作っている。継続指導していく。		○	
2	健康・安全意識の向上	定期健康診断を全員が受診したか。 必要に応じて専門医の受診を受けたか。 誰でも安心して利用できる保健室であったか。 生徒の観察を通じてその健康状態を正しく把握できたか。 感染症の感染拡大は防げたか。 職員・生徒への講習会を実施できたか。	・健康診断は良好。家庭通知は、検診後直後と一覧表は長期休み前に全校生徒に配布し、専門医受診に繋がるようにした。 ・安心して保健室を利用できるように、心がけた。 ・感染症対策として、早めに情報を流し予防に努めた。 ・心肺蘇生実技講習会（2回）エビペン講習会を実施した。	○		
3	生徒支援委員会との連携、充実	保健室や生徒指導係・特別支援教育支援コーディネーターおよび学年と情報の共有連絡・連携がとれたか。 当該生徒に改善がみられたか。	・定期的に係会を開き、情報の共有をすることができた。特別支援コーディネーター等と協力しながら、生徒支援に役立つ様取り組むことができた。更に充実できるように支援体制を整えていきたい。	○		

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)				総合評価	
会員が参加しやすい活動にするための工夫を検討する。		三役をはじめ、多くの役員の方、並びに会員の皆様の協力により、おおむね順調に活動を行うことができた。特にソフトバレーボールが復活できたことが何よりであった。ただ総会を始め、各活動への参加が以前と比べて、減少傾向ではあるので、参加体制の確立がすべての取り組みに求められていると思われる。				A	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C	
1	PTA 総会	総会・学年PTA・学級PTAへの参加態勢が十分であったか。	保護者の総会出席は130名、学年PTAは186名とほぼ前年並みであったが、減少傾向ではあるので、更なる呼びかけの工夫が必要と思われる。		○		
2	鈴蘭祭PTA展・バザー	鈴蘭祭へ積極的に参加できたか。	教育活動部の活動により、会員のご協力により実施できた。収益の43841円は全定生徒会へ分配。	○			
3	大学見学	会員の進路指導への理解を深めることができたか。	教育活動部の活動により、8月に法政大学を訪れ、P39名・T4名の参加を得て、実施できた。人数は受け入れ側の事情もあり、微減であった。		○		
4	ソフトバレーボール大会	会員の親睦を深めることができたか。	学年委員会の活動により、2年ぶりに実施することができ、P34名・T17名の参加を得られた。来年はチーム数を増やして実施できればと思う。		○		
5	PTA 会報	活動状況を会員に伝えることができたか。	会報編集部の活動により、計画通り年2回の発行を行うことができた。	○			
6	校外巡視	生徒の実態を保護者にも理解してもらえたか。	校外生徒指導部の活動により、中込七夕祭、野沢祇園祭、千曲川花火大会、鈴蘭祭後夜祭後の巡視の計4回の活動を計画通り行うことができた。	○			
7	職員	職員相互の親睦を深めることができたか。	職員歓迎会や暑気払いなど各教科持ち回りで行うことができた。	○			

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
① 同窓生と学校をつなぐ渉外係として、総会、理事会、支部長会が、役員はじめ多くの会員の方々との意見交・情報交換の場として機能するよう活動する。 ② 同窓会活動が円滑に準備、開催できるよう活動する。		母校に対して、何か出来ることはないかといろいろな試みを考え、活動を行っているが、まだ何か出来ないだろうか考える余地は多く残されている。			A	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	活動計画の作成	学校との連携を密にし、より学校、生徒の活動に役立てる計画になったか。	様々な活動において先生・生徒の協力を得て行うことが出来た。	○		
2	理事会・支部長会の準備・運営	より多くの役員の出席を得て、十分な意見交換ができ、スムーズな運営ができたか。	事前に綿密な打ち合わせを行ったおかげで、円滑に運営できた。	○		
3	総会の準備・運営	多くの同窓生の参加を得て、有意義な総会になったか。	多くの方々の協力によって、無事成功を収めることが出来た。	○		
4	会報作成への取り組み	充実した内容になるよう、係として協力できたか。	同窓会をアピールする場として、さまざまな活動をPRすることが出来た。	○		
5	「発展させる会」との連携	連携が密にとれ、活動に協力できたか。	発展させる会においては、有意義な意見交換を行うことが出来た。	○		